



ふじあさみ

「大沢崩れ」近年の開口亀裂と約100年前の写真

高解像度デジタル航空カメラを用いた開口亀裂の把握

標高3,445m~3,485m 大沢崩れ左岸の写真

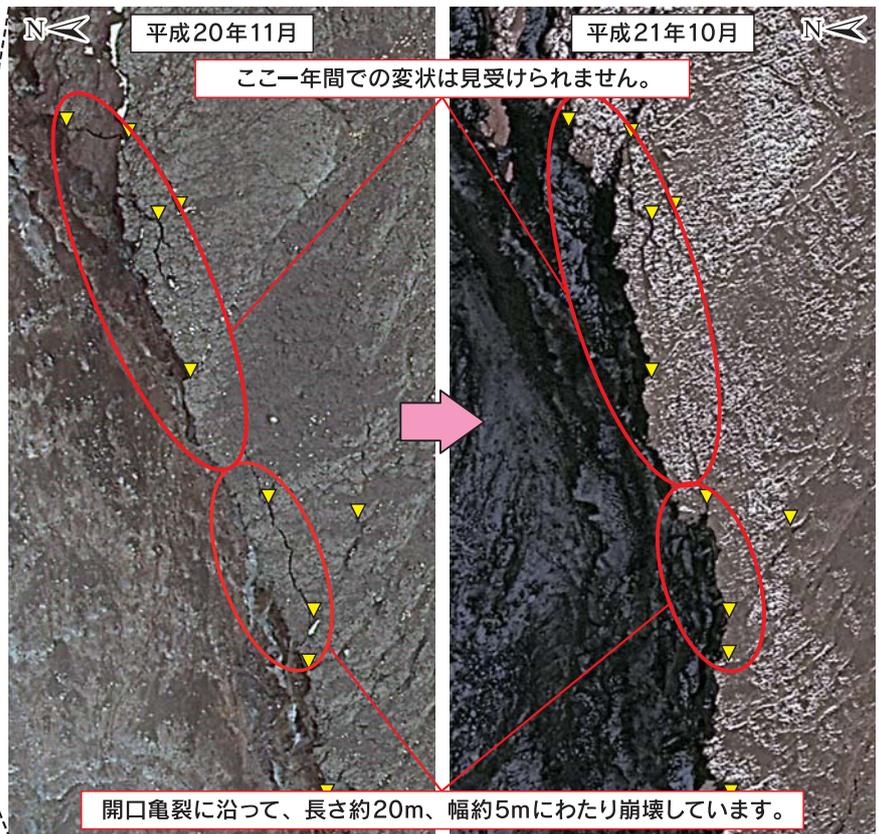
富士山大沢崩れ源頭部の熔岩層には幅10~30cmの開口亀裂が複数形成されています。この亀裂が大沢崩れの要因となっていることから、亀裂の変化の把握が崩壊発生を予測する上で重要な要素と考えています。富士砂防事務所では、平成20年度より高解像度デジタル航空カメラを用いて源頭部に多数存在する開口亀裂の位置、数、長さ等の把握に努めてきました。平成20年11月と平成21年10月の約1年間の開口亀裂を比較してみました。



現地の開口亀裂写真



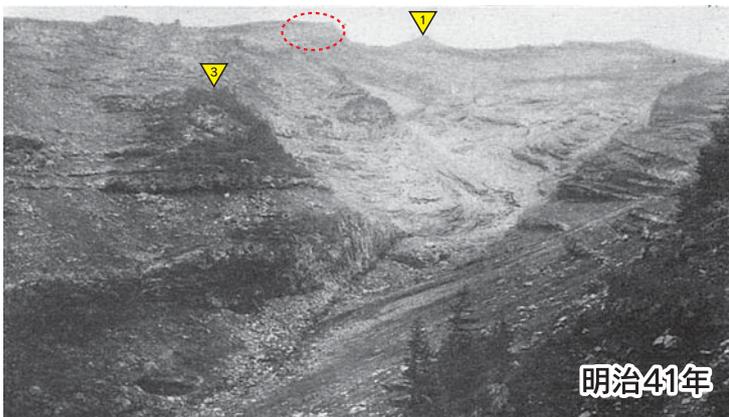
富士山頂
大沢崩れ



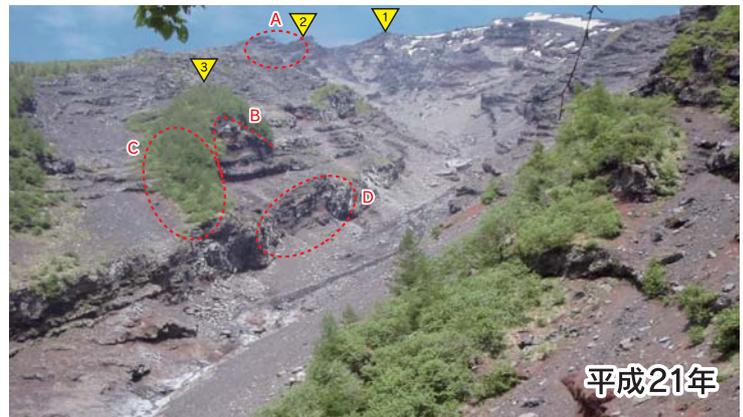
ここ一年間での変状は見受けられません。

開口亀裂に沿って、長さ約20m、幅約5mにわたり崩壊しています。

明治41年（1908）と平成21年（2009）の大沢崩れの比較



明治41年



平成21年

写真：大沢崩れ左岸側（標高約2,400m付近）より右岸側を望む

写真から分かること

- A：明治41年から平成21年までの約100年間にこの場所が大きく崩れています。
- B：明治41年に植性があったところが、現在は崩れてありません。
- C：明治41年には植性はありませんでしたが、現在は植性が回復しています。
- D：溪岸の溶岩層が崩壊しています。

「みんなで防ごう土砂災害」土砂災害防止月間の取り組み

平成21年は7月に九州北部、中国地方を中心に発生した豪雨などにより、全国各地で1,058件の土砂災害が発生し、22名の尊い人命が失われました。

今後も地球温暖化に伴う気候変動の影響により、熱帯低気圧の強度が増大するとともに、大雨の頻度も増加する可能性が高く、土砂災害の増加、激甚化が懸念されています。

富士砂防事務所でも土砂災害に対するみなさんの認識を深めるためにいろいろな試みを実施しました。



管内砂防施設及び溪流の状況点検実施



管内砂防施設及び溪流の点検状況

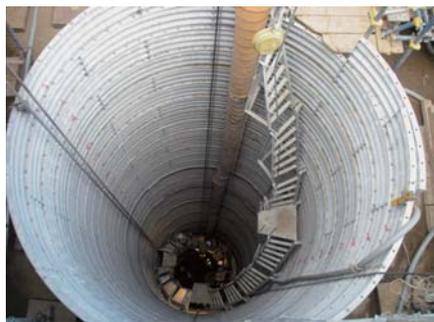
砂防設備等の異常に対する適切な対処を図るために砂防設備定期巡視点検要領に基づき、富士砂防事務所職員が主体となって徒歩により実施しました。結果、今回は大きな異常は見られませんでした。土砂災害に備え、今後も引き続き定期的に点検を実施し、砂防設備等の変状の早期発見、補修、補強等を実施します。

由比地すべり対策工事の現場研修

6月3日に富士市職員7名、6月4日に静岡県職員5名に対して由比地すべり対策工事現場において、地すべり工事への関心を喚起させるとともに、集水井等の取り組みとその必要性について説明を行いました。



富士市職員 平成22年6月3日



静岡県職員 平成22年6月4日

砂防フェスティバル静岡

5月29日(土)富士砂防事務所、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、静岡県砂防室、静岡市、静岡地方気象台の共催により、6月の土砂災害防止月間PRイベント「砂防フェスティバルしずおか」を静岡市青葉シンボルロードで開催しました。富士砂防事務所からは、「土石流模型実験」や、「パネル展示」などを行い、土砂災害防止に関するPRを行いました。



由比地すべり対策 工事用道路工事で採用のFCB工法

由比地すべり対策 工事用道路工事では、地すべりへの影響（盛土の軽量化、切り土回避）及び用地の制約（直壁の採用、盛土・切土の回避）を考慮した施工方法としてFCB工法で施工を行っています。FCB工法の施工概要を以下に紹介します。



①基礎施工、遮水シート設置



②壁面材設置



③FCB打設



④FCB打設後②、③を繰り返す



⑤舗装・ガードレール等施工後完成

…FCB工法とは…

セメント、再骨材、水、気泡から構成される気泡混合軽量土を盛土材として用いた工法です。地すべり地帯の盛土や軟弱地盤での盛土だけでなく、橋台背面の土圧軽減等にも有効な工法です。この工法は、盛土材料の単位体積重量や強度を自由に設定でき、施工性、経済性に優れた工法として注目されています。水に浮く盛土材料です。

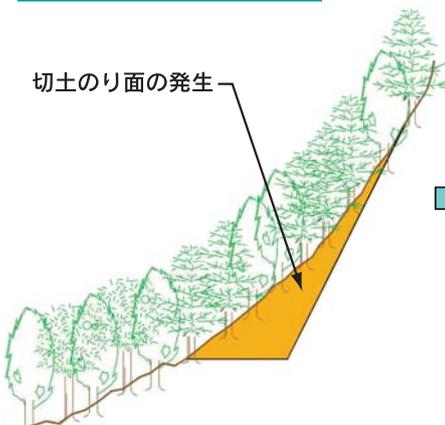
えっ！コンクリートが水に浮くの？

気泡モルタルはセメント、水、細骨材及び気泡から構成される軽量モルタルなので、水に浮きます。

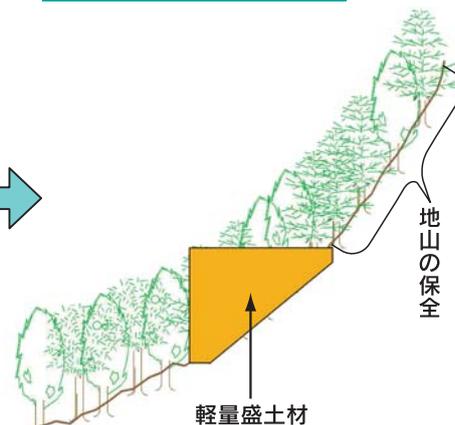


FCB工法のメリット

従来の切土主体の工法



軽量盛土を用いた工法



軽量盛土を用いた工法を採用することにより、従来の切土主体の工法と比べ、

- ①地山の改変を少なくでき、建設発生土を減らせます。
- ②のり面防災管理の簡素化を図る事ができます。
- ③建設コストの縮減につながります。

富士山総合学習及び現地見学会等結果報告

富士砂防事務所内では、富士山総合学習や砂防事業等への一層の理解を深めていただくため、公共団体等より依頼を受けて、平成22年4月～平成22年6月までに約220名の皆様が富士砂防事務所及び大沢扇状地を訪れ、砂防事業等についての理解を深めていただくことができました。

現地見学会



台湾雲林県職員
4月20日

出前講師



富士宮市立上野中学校1年生
4月30日

現地見学会



富士年金受給者協会富士宮支部女性部
5月25日

総合学習



富士宮市富士見小学校5年生
6月3日

総合学習



富士宮市立第二中学校
6月11日

現地見学会



富士宮市立上井出小学校
6月15日

平成22年度 砂防学会研究発表会報告

今年度の砂防学会研究発表会は5月26日～5月28日の3日間、長野市内で開催されました。富士砂防事務所からも岩本建設監督官が参加し、「富士山大沢崩れ源頭部対策に向けて（無人化施工の推進）」を発表しました。深い経験に基づいた広い視野に立った展望での発表でした。



●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いします。

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL 0544-27-5387

担当/調査・品質確保課 永井、富増まで
インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>
E-mail fujisabo@cbr.mlit.go.jp

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL 0544-54-0236

■由比出張所
〒421-3104 静岡県静岡市清水区蒲原新田2丁目16-8
(旧静岡市清水区役所蒲原支所議会議棟)
TEL 054-389-1202

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。

今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。